

和田 政宗 国土交通大臣政務官



はじめに、台風19号などの豪雨災害により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されたすべての皆さまに心からお見舞い申し上げます。

また、東日本大震災からの復興にご尽力いただいている関係者の皆様に対しまして、御礼申し上げます。

国土交通省としましては、被災された方々のお気持ちに寄り添いながら、一日も早い被災地の復旧・復興に総力を挙げて引き続き取り組んでまいります。

それでは、宮古盛岡横断道路 都南川目道路 田の沢から手代森間の開通にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、国会議員の方々、岩手県知事、盛岡市長、宮古市長はじめ、地元関係者の皆様方におかれましてはご多用のところご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日、このように開通の日を迎えることができましたのも、ひとえに用地をご提供いただいた地元の皆様をはじめ、事業の推進にご支援、ご協力を頂いた多くの関係者の皆様のお陰であり、心から御礼を申し上げます。

本日開通する、田の沢ICから手代森IC間3.4kmは、区間の約8割を占める延長2,625mの手代森トンネルにより、手代森地区の丘陵地を通過することが特徴であり、手代森地区の直下で硬い岩盤を掘削するため、住民の皆様のご理解・ご協力をいただきながら慎重に工事を進めてまいりました。

これにより、先行して平成28年3月に開通した川目ICまでの2.6kmとあわせ、全線6.0kmが繋がることになり、宮古市から盛岡市街地へのアクセス向上、広域周遊観光の拡大、救急医療搬送などに大きく貢献するものと期待しております。

国土交通省としましては、復興道路・復興支援道路について、復興・創生期間内、2020年度までの全線開通を目指し、事業を推進して参りますので、引き続き、関係の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、当地域の更なる発展と、東日本大震災からの復興、並びに本日ご臨席の皆様方の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

達増 拓也 岩手県知事



私からも今般の台風19号により、犠牲になられた方々に哀悼の意を表し、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

さて、宮古盛岡横断道路 都南川目道路の田の沢ICから手代森ICまでが開通するにあたり、御挨拶を申し上げます。

本日は、和田政宗 国土交通大臣政務官はじめ、政府関係の皆様、岩手県関係国会議員の皆様、関根敏伸 岩手県会議長をはじめ、御来賓の皆様、また、盛岡市・宮古市はじめ関係の皆様の御臨席を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

地域高規格道路 宮古盛岡横断道路は、三陸沿岸の拠点都市 宮古市と、県都 盛岡市を結び、盛岡秋田道路と一体となって北東北の産業、経済、文化等の発展を支える主要幹線道路であります。

このうち都南川目道路は、平成9年度に直轄権限代行として事業化され、震災後は「復興支援道路」に位置付けられ、かつてないスピードで整備を進めていただき、本日、田の沢ICから手代森ICまでが開通の運びとなりました。

これも、先祖伝来の貴重な土地を御提供くださいました地権者の皆様、また、澤目獅子踊りに象徴されます歴史と伝統あるこの地域の住民の皆様、そして関係の皆様の多くの御尽力、御支援のたまものであり、深く感謝申し上げます。

この度の開通により、都南川目道路は約6km全てが開通し、築川道路と合わせて盛岡市内の約13kmが高規格道路でつながることになり、宮古・盛岡間の所要時間短縮による円滑な救急医療活動の確保、盛岡南ICや盛岡駅へのアクセス向上による広域周遊観光の促進など、県民の安全・安心な暮らしや産業・観光振興に大きな効果が発揮されます。

また、令和2年度には、復興道路・復興支援道路が全線開通する見通しであり、道路のストック効果がより広く全県に波及し、全国各地との結び付きも強まり、国民生活や国民経済への貢献も期待されます。

岩手県では、国や市町村、関係者の皆様と一体となって、復興道路・復興支援道路の早期全線開通に取り組み、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を実現してまいりますので、引き続き御支援・御協力を賜りますようよろしく願いいたします。

結びに、本地域のますますの御発展と御臨席の皆様の御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、挨拶といたします。

谷藤 裕明 盛岡市長



まずもって私の方からも、先の台風19号によりまして、お亡くなりになりました方、被災されました皆様方にお見舞いを申し上げます。

本日ここに、宮古盛岡横断道路 都南川目道路 田の沢 手代森間が開通できますこと、心よりお慶び申し上げます。

未曾有の被害をもたらしました東日本大震災から8年余り、宮古盛岡横断道路について、かつてないスピードで事業が進められておりますことは、国、県をはじめとした関係者の御尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

また、用地を御提供いただいた皆様方におかれましては、御協力を賜り深く感謝申し上げますとともに、地域住民の方々におかれましても、工事期間中、多大なる御協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

本年8月には、国土交通省より復興道路・復興支援道路が、来年度までに全線開通との見通しが発表されましたことは、復興の更なる弾みとなるものと存じ、重ねて感謝申し上げます。

本市はこれまで、東日本大震災からの復興に関し、沿岸被災地に寄り添った支援を行うとともに、宮古盛岡横断道路の早期全線開通について、関係機関に要望を重ねてまいりました。

都南川目道路の全線開通により、宮古～盛岡間における移動時間の短縮による物流の効率化促進は言うに及ばず、これに伴う地域産業の活性化や周遊観光圏の拡大による経済効果、更には沿岸部から内陸部の高次医療施設への救急搬送や医療活動の安定性・迅速性の確保など、いわゆるストック効果の発揮が大いに見込めるものと期待いたしております。

また、本年10月に発生した台風19号により甚大な被害を受けた沿岸部では、今後、本格的な復旧事業が始まることとなりますが、このストック効果により、復旧事業がより迅速に進むものと確信しております。

結びに、都南川目道路開通の関係者の皆様方の今後益々の御発展と御活躍を祈念いたしまして、挨拶といたします。

本日は誠にめでたうございます。本当にありがとうございました。

階 猛 衆議院議員



皆さん、おはようございます。ご紹介を賜りました、衆議院議員 階猛です。

本日は、都南川目道路の全線開通、誠におめでとうございます。

また今日は、山本市長はじめ、宮古市からたくさんおいででいらっしゃいますけども、先の台風19号の被害に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

その復旧・復興を始め、東日本大震災の復興を加速するために、この道路が大変有意義な効果を発揮するものと確信しております。それ以外にも、先程来お話がありますとおり、この道路が出来ることによって様々な効果が期待されるわけがあります。

振り返って見ますと、今から8年以上の前、震災直後のことであります。

私は当時、民主党政権の一員として復興をどうやって進めるか、そのことを話し合っている中で、当時政府は財務省中心として、横断する道路、これは復興支援道路と言われておりますが、釜石と花巻、この一本だけでは良いのではないかとこんなお話もありました。

しかし、度々被災地に行くことによって、宮古と盛岡、もう一本横断道路が必要だということで、だんだんと政府内の意思が固まって、この宮古～盛岡の横断道路も、国が100%支援して進めようということになったわけがあります。

事程左様に、道路というものは大変重要な意義をもつ訳ですが、ただこれを進めるには、地元の皆様の協力、そして私ども政治に携わるものが全力で支援していかななくてはならない。今回の横断道路の完成を機に、改めて感じた次第でございます。

まだまだ復興は、道半ばです。宮古盛岡横断道路を一刻も早く完成するために、これからも全力を尽くして参りたいと思います。

本日は誠におめでとうございます。

高橋 ひなこ 衆議院議員



おはようございます。

都南川目道路開通にあたって、本当に地域の皆様のご協力があったということを伺いました。どんな苦労があったんですかと伺ったところ、途中で水が出て、地域の方々のご協力を頂いたり、また山間の非常に厳しい断面をしっかりと工事をしたり、工事業者のご苦労そして地域の方々の本当に多大なるご協力、このことを国交省の皆さん強調していらっしゃいました。

本当に、関係するすべての皆さんに心から敬意を表します。

そして今回、東日本大震災 復興支援道路ということですが、その被災者の方々からお電話を頂きました。台風19号でまた被災した。俺は4回目だ。3回目だ。そういう方々が道路の復興を色々見ながら、様々な思いをいらっしゃいます。

そういう方にしっかりと寄り添うように、政府と一緒に、その一助として、被災をした方、台風被害の方に心から敬意を表し、お手伝いが出来ればと思っております。

そして、私が子供の頃、宮古に行くまでは3時間以上かかっていました。隘路の激しい本当にボコボコの道があったり、それが今、2時間を盛岡から切っております。

あの災害の時、道路って命の道路なんだ、様々な首長の方と道路の要望に行くとき、岩手県は四国4県分あるんです。だから、四国4県分の道路の予算を下さい。とお願いをすると、この東日本大震災の時に限って、4県分の道路の予算が入っていたのです。

でもそれが終わったら、また元の1県分になってしまうでしょう。こういう所もしっかりサポートしなければいけない。そして、復興で本当に心を痛めている方々、まだまだ復興半ば、その事にも寄り添いたい。

そして先ほど、東北地方整備局の酒井道路部長に、本当に44%しか宮古盛岡横断道路が完成していないのに、来年度でちゃんと100%出来るんですかと聞いたら、大丈夫ですと太鼓判を押されております。

しっかりと、国交省、地域の皆様、様々な方々とともに、この道路が来年度開通しますよう、そして復興創生期間後も10年間復興庁しっかりとサポートするという事を発表させて頂きました。地域の皆様のご協力を頂きながら、本当に困った方々のサポートが出来るよう、これからは政府そして与党一丸となって頑張っていきたいと思っております。

結びに、本日のこの道路開通のために、ご協力下さいました全ての皆さんに心から感謝を申し上げ、私もこの道路使わせて頂きます。

心から御礼を申し上げます。本日は誠におめでとうございます。

木戸口 英司 参議院議員



皆さん、おはようございます。

本日開通の田の沢 手代森間3.4km。ただの3.4kmではありません。

そして、この都南川目道路全線6km。ただの6kmではありません。

宮古から岩手医大まで1時間59分、4分短縮された。ただの4分ではありません。

ここに人が住み始めて、そして三陸沿岸に人が住み始めて、この北上山地を越える海の幸を内陸に届け、内陸の幸を沿岸に届ける。

この事は、ここに住む人たちにとって大きな課題でありました。

それが多くの皆様のご苦労によって、そして東日本大震災津波という大きな大きな被害によって、ここまで乗り越えて、この距離そして時間が短縮されてきた事、多くの関係皆さんに心から感謝・御礼を申し上げる次第でございます。

東日本大震災から8年と9ヶ月、もう少しで丸9年。

復興の総仕上げに向かう大事な時期であります。そして先ほどお話しがありましたとおり、台風19号の被害が、3年前の台風10号の被害に重ねての被害。

この復興が本当に皆様大変なご労苦を頂いているところでございます。

また、海のほうでは今年は鮭が大不漁だ。また、サンマもイカも大変厳しい状況であります。沿岸と内陸が、岩手が一つとなって、これからの未来に向かっていくこの道路の開通がその契機となりますように、また宮古盛岡横断道路、20年度末に完成ということでもありますけど、早期の完成を皆様と誓い合って、今日の開通式を祈念したいと思います。

昨日夜、NHKでプラタモリが放送されました。花巻と宮沢賢治さんが大きなテーマではありましたが、岩手県の県土の成り立ちが大きな根底のテーマでありました。5億年前の北上山地、そして北上川を挟んで奥羽山脈の2500万年前の新しい土地、ここがちょうど北上川で結節点となっている、岩手の古い素晴らしい伝統と、そして岩手の新しいこれからの、ちょうどここが結節点となっております。

これから希望郷いわてに向かっていくことを皆様と大いに誓い合って、今日のお祝いとさせていただきます。

おめでとうございます。

横澤 高德 参議院議員



皆様、おはようございます。

本日は、宮古盛岡横断道路 都南川目道路の開通、心よりお祝いを申し上げます。また、災害に強いまちづくりの一環として、命をつなぐ道路の整備は非常に重要であると考えます。

本日の開通で、沿線の住民の方々の暮らしの利便性が高まり、そして非常時への皆様の安心感が高まったこと、また来年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。復興を見据え、この三陸の魅力をこの道路に乗せて、国内外に発信できることを、心より喜ばしいことと思えます。

今後とも皆様のご要望を伺いながら、国会議員の皆様そして市町村長の皆様、知事をはじめ皆様とともに、復興を押し進めるとともに地域のインフラ整備や災害に強いまちづくりに尽力して参る覚悟でございます。

引き続き、ご指導の程賜りますようお願いを申し上げますとともに、各市町村の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。
本日は誠にめでたうございます。

【地域の声】鈴木 良太 共和水産株式会社 代表取締役専務



本日は、宮古盛岡横断道路 都南川目道路開通式にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。私は、鈴木良太と申しまして、別名「イカ王子」というネーミングで活動をしている水産加工会社の2代目です。岩手県に水揚げされるスルメイカを中心に加工し、国内外に販売させていただいております。

私の地元宮古市は、私が小さい頃は、陸の孤島と呼ばれておりました。目の前は大きな海の太平洋、三方は山に囲まれており、隣町の久慈や釜石までは、約1時間50分。盛岡までは2時間。高速道路、フェリーもない。まさに陸の孤島でした。出張で弊社にいらしたお客様もよく言うものでした。「えっ、宮古ってこんなに遠いの?」「東京から海外に行った方が近いよね。」そんな会話も珍しくありません。道路が出来ることで、物流の効率化が促進されます。水産業界でいいますと、もちろん魚です。まさに鮮度が命です。

宮古市は、秋鮭、マダラの水揚げが本州一と恵まれた漁場に位置しながらも、販路拡大が難しい面が昔からございました。それは時間です。輸送時間がかかるために、次の日の市場売りに間に合わないのです。そこに間に合わないと、鮮度が落ちて、価値が半減されることがあるからです。水産業界の産地間競争では、まさに物流が一番のポイントです。

現在、さまざまな水産資源が枯渇している状況ではございますが、鮮度や管理を売りにしている宮古の魚は、この道路開通を好機ととらえ、付加価値向上、魚のブランド化に取り組んで参りたいと思っております。昨年開通しました、宮古室蘭フェリー航路もございまして、岩手県、そして宮古市の皆様の努力のおかげで、現在では大型客船も宮古港に当たり前のように来ます。観光名所、おいしい海の幸を国内外の観光客にも、来ていただけるチャンスですので、地域の魅力をもっと全員で磨いていきたいと思っております。

現在私は、アメリカ・マンハッタンに商品を輸出しております。地域の若い子たちに、魅力のある産業と伝えたいからです。地域でも、夢を持って良いと思っております。マンハッタンへまた距離が近づきました。アメリカンドリームの実現に向けて、今後さらに頑張っていきたいと思っております。

本日は道路開通、誠にめでたうございます。

ありがとうございました。

【期待のメッセージ】山本 正徳 宮古市長



只今、紹介頂きました宮古市長の山本でございます。

私の期待の声は、先ほどイカ王子が全て言ってるようでございますが、付け加えさせて頂きたいと思えます。

まずもって、宮古盛岡横断道路 都南川目道路の全線開通、おめでとうございます。宮古盛岡横断道路は、県都・盛岡市、三陸沿岸を結ぶ重要な路線でございます。

8年前の東日本大震災におきましては、国土交通省東北地方整備局のくしの歯作戦により、被災地への救命・救援の道として、正に命の道としてその役割を果たしている、この道路であります。

復興支援道路である宮古盛岡横断道路の早期整備は、東日本大震災のみならず、平成28年台風10号などの災害から、地域住民の安全・安心な生活を守るためにも、非常に重要であります。

また、先ほどもお話がありましたが、観光・物流の面におきましては、宮古・室蘭フェリー、これは復興道路・復興支援道路が開通することを見越して整備されたものでございます。

また、宮古盛岡横断道路が開通しますと、この盛岡圏まで大型クルーズ船の周遊観光ツアーが可能となってまいります。

医療面におきましても、三次医療機関であります岩手医科大学附属病院へのアクセスが向上いたしまして、患者への負担、救命が可能となると沿岸地域は期待しております。

これまで、ご支援、ご尽力いただいております国土交通省をはじめ、岩手県そして、関係機関の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございます。

三陸沿岸地域の復興そして創生を支える、この宮古盛岡横断道路。一日も早い全線整備、そして皆様のご健勝を祈念し、期待の言葉とさせていただきます。

本日は、おめでたうございます。